

ニッターズルームで
手織りを学ぶ

Learn to weave on the Knitters Loom



aShford
WHEELS & LOOMS

ようこそ、 すばらしい手織りの世界へ・・・

初めてのスカーフを織る

用意するもの

よく切れるはさみ

メジャーテープ

細長い厚紙（長さ約 20cm）×数枚

テーブル ×2 台

たて糸

手紡ぎ風のなめらかな質感がある、アシュフォードテカポ DK（ダブルニット）スポーツウェイトヤーン / ブライトピンク 100g 玉 ×1 ケ

よこ糸

ファンシーヤーン（アイラッシュヤーン）100g 玉 ×1 ケ

*糸は全て使い切りません。残りは次の作品に使いましょう。

作品データ

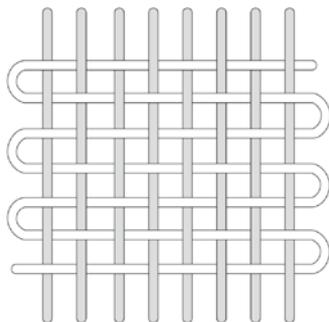
長さ - 1.9m（両端のフリンジ分 23cm を含む）

たて糸の数 - 48 列

できあがり幅 - 14cm

たて糸とよこ糸

全ての織りの基本となる 2 つの大切な言葉を覚えましょう。まず、織り機の前後のローラーの間に張る糸を「たて糸」といいます。そして、そのたて糸を上下にくぐらせながら、横に通す糸を「よこ糸」といいます。

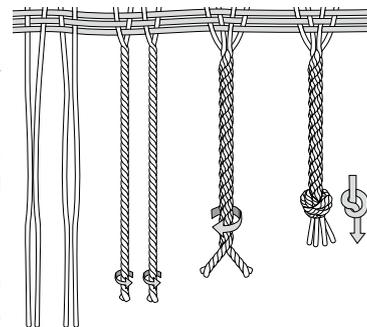


テーブルが 1 台しかない場合

織り機をテーブルの方に固定して、もう一方にはイスを使っても構いません。この方法でたて糸を張る場合は、背の真っすぐなイスを選んで下さい。

ツイストフリンジの作り方

まず、4 本のたて糸を 2 本ずつに分けて、その 2 本ずつをそれぞれ右方向に撚ります。十分に撚ったら、その撚った糸同士を、今度は逆方向に撚り合わせます。撚りを多くかけると、細く軽い感じになります。この様に、撚りの強弱を色々試して、好みの感じになったところで、端を結んで留めます。全ての房を結んだら、長さを整えてでき上がりです。



感じの違う作品を織る

密度の違うおさを使うことで、色々な種類の糸を使って、様々な風合いの作品を織れるようになります。ニッターズルームのおさには、オプションで 20、30、40、50 羽 / 10cm が揃っています。ぜひご利用下さい。



この織り機について

ニッターズルームの**おさ**は、遊び心のある太めのファンシーヤーンなどが通りやすいように、たて糸を通す穴とすき間が大きめにできています。これによこ糸を打ち込んで織物を織っていきます。このおさには、10cm間に30本の糸が通るようになっています。

シャトルは、よこ糸を巻いて使います。よこ糸を織物の端から端へ、たて糸を上下にくぐりながら渡すための道具です。

ワーピングペグ、**そうこう通し**、**おさ通し**、**クランプ**は、たて糸を張るときに使います。

01



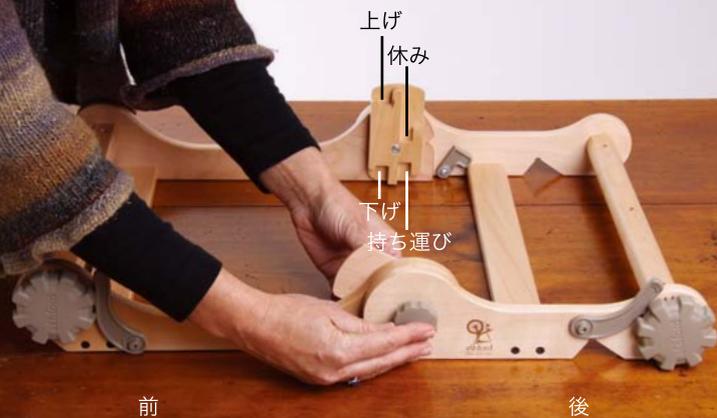
織り機をおりたたんだ状態です。

02



本体両脇の真ん中にあるつまみ「サイドノブ」を緩めて、織り機を開きます。

03



おさ立てを上に向けたら、サイドノブを締めます。おさ立てには、おさを上げる時に置く「上げ位置」、下げる時にかかる「下げ位置」、また、たて糸を巻く時の「休み位置」と、おりたたむ時の「持ち運び位置」の4ヶ所の凹みが付いています。

04



おさをおさ立ての「休み位置」に立てて、前後のブレーキのツメが、それぞれの歯車にきちんとはまっているか確かめます。

05



ワープスティックを、前後それぞれのローラーに取り付けます。まず、ワープスティック留めの矢印型になっている方を、ワープスティックの穴に通して下さい。

06



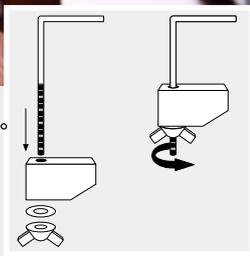
留め具をワープスティックに通したら、それをそのままローラーの穴に差し込んで向こう側まで通します。



07



織り機をクランプでテーブルに固定します。右図の様にクランプを組立てたら、織り機の後ろとテーブルを挟んで、しっかりと固定して下さい。



08



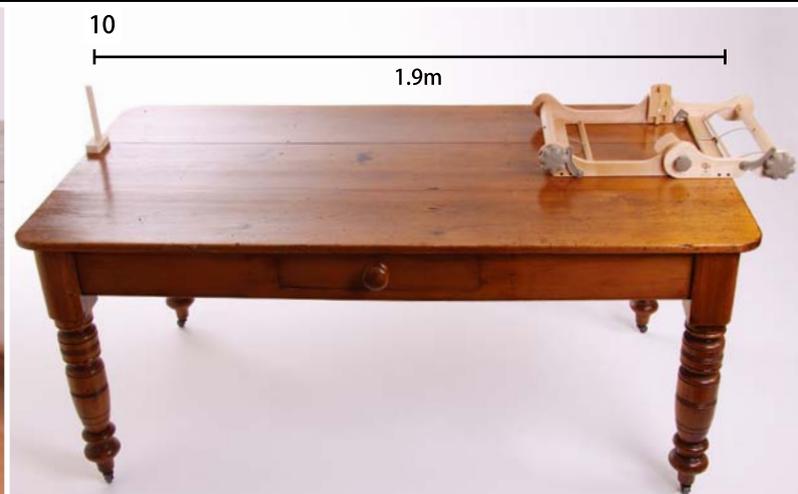
底に V 字型の切り込みがある方が、織り機の後ろです。

09



ワーピングペグを土台に差し込んだら、それをもう一方のテーブルにクランプで固定します。

10



ワーピングペグから、織り機後のワープスティックまでの距離が約 1.9m になるようにテーブルの位置を調節します。

*写真では、大きなテーブルを 1 台だけ使っています。

11



おさの端から 10 列目のすき間に、たて糸を張り始める目印の糸を軽く結びます。

12



このスカーフのたて糸は 48 本ですので、初めに 24 のすき間に 2 本ずつ糸を通していきます。まず、たて糸の最初の端を目印の糸のすぐ後ろでワープスティックに結んで下さい。この時、ローラーとワープスティックの間隔は約 8cm になっています。



13

おさ通しを使って、目印の糸を結んだすき間に最初の糸を通します。



14

通した糸をそのまま引っぱって、ワーピングペグに引っかけます。これで、1つのすき間に2本の糸が通ったことになります。この作業をする時は、たて糸の毛糸玉を織り機の後ろの床に置いておくといいでしょう。



15

ふたたび織り機に戻って、たて糸をワースティックの下から取って、前の糸の隣のすき間に通します。そして、それをそのまま引っぱって行って、ワーピングペグに引っかけてきます。



16

織り機に戻ったら、今度はワースティックの上からたて糸を取ります。そして前の糸の隣のすき間に通して、ワーピングペグに引っかけます。この様に、上下交互にたて糸を取りながら、24のすき間全てに2本ずつ糸を通します。



17

全てのすき間にたて糸を通したら、最後の端を後ワープスティックに結んで切ります。



18

ワーピングベグの方でたて糸を束ねて、15cm くらいの糸でしっかりと結んでおきます。この結び目は後でほどきますので、ほどきやすい結び方で結びましょう。



19

ワーピングベグにかかっている糸を、全てはさみで切ります。



20

ここで誰かに手を借してもらいます。その人には、たて糸の束にした辺りを持って、糸を張っておいてもらいます。そして、たて糸が織り機に巻き取られるにしたがって、少しずつ前に進んでもらって下さい。巻き取る人は、織り機の後ろに立ちます。



21



a. 後ハンドルを手前に回してたて糸を巻き取り、一周した所で細長い厚紙を挟みます。**b.** そのまま巻き続けて、前の厚紙を過ぎた所で次の厚紙を挟みます。この様に、厚紙を足しながら巻き取っていきます。この厚紙は、糸どうしがくっついてしまうのを防いで、たて糸の張りを均等に保つためのものです。

22



たて糸の束ねたところが織り機の前を通り過ぎた辺りで、巻き取るのを止めます。束ねてある糸をほどいたら、それ以上ローラーを巻かないようにして下さい。

23



織り機をテーブルから外します。サイドノブを緩めて、本体内側の2つのL字ブロック（左上図）が凹みにかかるまで織り機の後部部分を持ち上げて下さい。おさ立てが上を向いているかどうか確かめて、サイドノブを締めます。

24



糸が切れてしまわないように、やさしく引っばって下さい。

おさの一番左のすき間の2本を持ち上げたら、おさの向こうで左側になっている方の糸だけを慎重に引き抜いて、それをさうこう通して左隣の穴に通します。この作業を続けて、全てのすき間と穴に、糸が1本ずつ通っているようにして下さい。

25



織り機の前に出ているたて糸を、12本ずつの束に分けて、真中の束から順にワープスティックに結んでいきます。束はワープスティックの上から下へくぐらせたところで、束を2つに分けて、その両側を通して上に出して結びます。(写真参照)

26



この時点では、まだ1回だけ結んでおきます。

27



全ての束を結んだら、前ハンドルを手前に回して、たて糸をびんと張ります。ここで、全ての糸の張りが均等かどうか確かめます。

28



たて糸の張り具合に強弱のむらがある場合は、ワープスティックの結び目で調節して、全ての糸の張りを均等にします。



29

全ての糸の張りが均等になったら、もう一度しっかりと結びます。この結び目は、織り上がった時にほどきやすいように、片結びにしておきましょう。



30

座り心地の良いイスに座って、織り機をひざの上にのせたら、織り機の底のV字型の切り込みをテーブルの縁に引っかけます。これが織る時の姿勢になります。



31

まず、おさを持ち上げて、おさ立ての「上げ位置」(ステップ3参照)に置きます。そうして上下に開いたたて糸の間に、細長い厚紙を通して、それをそのまま手前に引きよせます。



32

次におさを「下げ位置」にします。そして同じように、開いたたて糸の間に厚紙を通したら、それを手前に引きよせて、おさを「上げ位置」に戻します。ここで挟む厚紙の分が房の長さになりますので、房を長くしたい場合はこれをくり返します。

33



ここでは、もう一枚厚紙を入れることにします。「上げ位置」で厚紙を挟んだら、それを手前に引きよせて、おさを「下げ位置」にしておきます。次の段からは、このたて糸の間によこ糸通していきます。

34



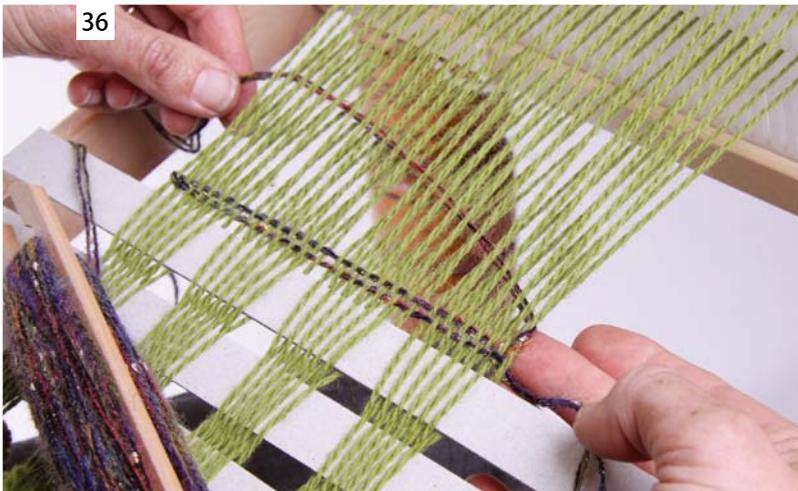
まず、シャトルによこ糸を巻きます。

35



- a. 上下に開いているたて糸の間に、シャトルを通します。
- b. よこ糸の最初の端は、外側に5cm程残しておいて下さい。

36



よこ糸を向こう側まで通したら、おさをやさしく手前に引いて、よこ糸を押し込むような感じで1段目を打ち込みます。今度はおさを「上げ位置」に置きます。



37

さらに次の段のよこ糸を通して、やはり前の段と同じ様に、おさでやさしく打ち込みます。



38

おさはやさしく打ち込んで下さい。
段と段の間に余裕をもたせて下さい。

ファンシーヤーンの良さを活かすために、段と段の間に余裕を持たせて打ち込みます。また、通したよこ糸をおさの方に上げて、約20°の角度をつけてから打ち込むと、織物の縁が真っすぐになります。よこ糸は強く引っばらないようにしましょう。



39

そのまま織り続けて、織った分とおさとの距離が10cm位まで近づいたら、織物を前ローラーに巻き取ります。それにはまず、**おさを「休み位置」にしてから**、後ローラーのブレーキを一度外して、少したて糸を引きだします。



40

引きだした分のたて糸を前ローラーに巻き取ります。この様にして、織り上がったものを前ローラーに巻き取りながら、織り続けていきます。

41



たて糸の終わりまでの長さが13cm位になったら、よこ糸を少し長めに切って、織る作業は終わりです。たて糸を後ワープスティックにそって切ります。この時、一緒にワープスティック留め具を切ってしまうないように気をつけて下さい。

42



前ブレーキを完全に外して、作品をローラーから外します。

43

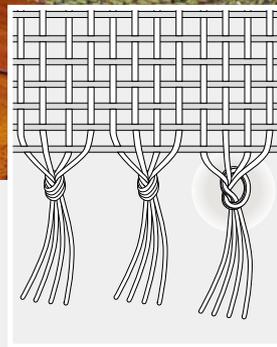


ワープスティックの結び目をほどいて、作品を完全に織り機からおろします。厚紙も取り除いて下さい。

44



作品をテーブルに平らに広げたら、房を6本ずつの束にして、それぞれを右図の様に結びます。よこ糸の終わりの端は、かぎ針などで作品に編み込みます。



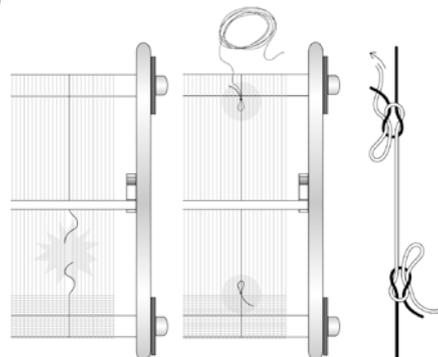
仕上げ

作品が織り上がったら、洗って仕上げましょう。洗うと糸が膨らんで段のすき間が埋まるので、ぐっと"仕上がりが感"が増します。

洗い方

ほんの少し洗剤を溶かしたぬるま湯で、軽く押し洗いをした後、きれいなぬるま湯ですすいで干します。掛けて干す場合は、タオルに重ねておくと折れ目がつきません。そして、まだ湿っているうちに、一度柔らかい綿布の上から低温のアイロンで圧して、今度は完全に乾かします。さあ、これででき上がりです。初めて織った手織りのスカーフを巻いて出かけましょう！

たて糸が切れた時の継ぎ方



役に立つヒント

結び方

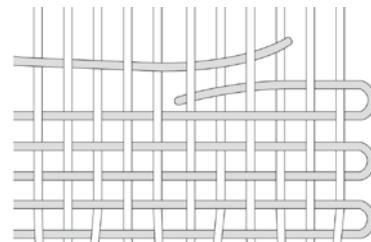
織りの作業で何かを結ぶ時は、後で必ずほどくことになりますので、いつもほどきやすい結び方で結びましょう。

打ち込み

おさは常にやさしく打ち込みましょう。織っている時には織り目が粗く感じても、織り機から外して張りがなくなると目が詰まります。さらに、仕上げ洗いでまた一段と密になります。

よこ糸の足し方

足した新しい糸の端と、それまでの糸の端が重なるように打ち込みます。



おりたたみ方



おさを「上げ位置」にして、たて糸の間にシャトルを挟みます。



おさを押し下げて「持ち運び位置」(ステップ3参照)にします。



サイドノブを緩めて、親指で両側のL字ブロックを外します。



織り機の後ろ半分を手前におりたたんで平らにします。



サイドノブを締めて、さあ出発！

手織りについての詳しくは、役に立つヒントや作品アイデア満載の「アシュフォード リジッドヘドル 織りの本」、「the Ashford Book of Weaving for Knitters (25 easy and exciting scarf patterns)」(ロウェナ・ハート著)をお求め下さい。

ashford
WHEELS & LOOMS

Ashford Handicrafts Limited
415 West Street, P O Box 474, Ashburton
New Zealand
TEL : +64 3 308 9087
FAX : +64 3 308 8664
E-mail : sales@ashford.co.nz
HP : <http://www.ashford.co.nz>

